

BUSINESS

リーダーになる!



実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。13年、「怒らない技術」シリーズほか、著書の累計が100万部を突破した。
www.leaders.ac

第103回 グローバルリーダーの育成

業種や業態、国ごとの特殊要因はあっても、継続的かつ永続的に成長している企業には、世界共通の理由があります。グローバルリーダーが必要な時代です。

シンガポールから日本へ 累計100万部突破

明けましておめでとうございませう。当コラムでは引き続き、「実践する上司学」をニューヨークの皆さんに届けていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

わたし自身、2013年を振り返ると、大きなことが二つありました。まずは、6年間お世話になったシンガポールから日本への帰

国。そして、2005年の処女作『だから、部下がついてこない!』を発売してから、累計で100万部を突破したこと。11月にその二つの報告を兼ねて、パーティーを開催しました。

「読者のために」というコンセプトで開催しましたが、「日ごろからこうやっていろいろな人に支えられているんだな」と改めて感じることができました。おかげさまでたくさんの方に集まっていたいただき、手作り感

いっぱい、本当にいいパーティーにすることができました。この場を借りて、ご協力くださった皆さまに感謝したいと思います。ありがとうございました!

グローバルリーダー 「日本発」で育成

せっかく日本に戻ったので何かしたいと思い、8月に一般社団法人日本リーダーズ学会を立ち上げました。理念は「あなたと一緒に働けて良かった。」を全てのリーダーに。2014年は、その理念を掲げ、6年間の海外生活を武器に、これから世界で活躍するグローバルリーダーを日本発



2013年に11月に行った100万部突破記念&帰国報告パーティー

で育成できたらと考えています。 若干の業種や業態、国ごとの特殊要因はあっても、結局はどここの国に行っても、継続的かつ永続的に成長している企業には、世界

共通の理由があります。そしてそこには、その企業をけん引するリーダーの存在が大きく関係しています。「何のために上司をしているのか」、「リーダーとして、最も大切なものは何か」、「リーダーとしてどのように行動するべきだと考えらるか」の三つが常に問われます。つまり、リーダーの存在意義・果たすべき役割と貢献について考え、実行するのが、これからは生き抜くリーダーです。それに答えられる者こそが、真のグローバルリーダーだと思えます。その答えにつながる「上司学」のメッセージを伝えていきます。